

核兵器なき世界の実現に向けて 語り継ごう 平和の尊さを

～広島平和記念式典に参列～

広島・長崎に原爆が投下されて78年。

広島平和記念公園には様々な年齢・国籍の方々が訪れ、平和への祈りを捧げました。



被爆者の方たちの高齢化により、戦争体験者の生の声を聴く機会は、今後ますます少なくなっていくことでしょう。これからは戦争を知らない世代が学び、考え、次の世代に語り継いでいかなければなりません。村では、昭和63年に「非核平和美浦村宣言」を行い、戦争の悲惨さと平和の尊さを次代へ語り継ぐための活動を続けています。今年もその一環として、小学生親子3組と非核平和美浦村宣言推進協議会代表、村議会議員代表などの計10名が、小中学校の児童生徒たちが平和への願いを込めて折った千羽鶴を奉納するとともに、広島市の原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式(平和記念式典)に参列しました。

ここでは、参加者が広島派遣を通して感じた、平和への思いを語って頂きました。

《敬称略》



原爆の子の像前にて



原爆ドーム前にて

美浦村議会議員 林 昌子



一発の原子爆弾投下で一瞬にして14万人の命が奪われた悲惨な被爆の実相や、今なお後遺症に苦しんでいる多くの方がいらっしゃる現実に、核の恐ろしさを痛感しました。被爆体験講和では『忘れられた歴史は繰り返される。奪って良い命は無い。皆さん命を大切にしたい。』との言葉が胸に刺さりました。「ヒロシマの心」を全世界の人に伝え続け悲惨な過去を決して風化させない。核なき「対話による平和な世界」を目指す。若い世代の方が行動を開始しています。私たちも自分のできることを考えませんか。このような機会を頂き深く感謝申し上げます。

美浦村男女共同参画共に輝くみほの会会長 松山 和子



平和祈念式に参加し原子爆弾の犠牲となられた多くの御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。原爆ドームを真近かに見て、何が、何故、こんなことかと思いを考えさせられました。78年前元安川に重なり合うように人々があふれ人が波の流れに見えたとありました。私は立ち止まり手を合せることしかできませんでした。青少年平和文化イベントで、被爆体験者の講話を聞いて、「命の大切さ」をあらためて感じました。私ひとりでは、何もできませんがこの夏の体験を知人、友人たちに広めていこうと思います。平和と命のために。

大谷小学校6年 小川 謙剛



僕は、広島へ行き、原爆で何十万人もの命がうばわれたのを知りました。平和資料館で、被爆し目玉がたれさがった人や全身にやけどをおった女性や川に大量の死体が重なっているのを見て、原爆のこわさがすごく伝わってきました。平和式典では、広島市長や総理大臣などが核廃絶などの話をしていて核廃絶の大切さが分かりました。原爆ドームは、爆心地から南東に160メートルという近さから原爆が起きて、まだ原爆ドームが残っていたことがすごいです。原爆ドームが残っているおかげで原爆のすごさが分かったので語り継ぎたいです。

大谷小学校保護者 小川 美絵子



8月6日に平和記念式典に参列しました。献花の時の演奏を聞き、この時間、原爆はこの空に向かっていたのだと考えると、どうにか回避できなかったのだろうかという思いでした。多くの尊い命を奪った原爆、戦争を二度と起こしてはいけなと感じました。戦争の時を生き抜いてきた人達がいるから、私達は今を生きることができています。子ども達には、今ある平和な日常に感謝し、自分の命を大切にできる人になってほしいと思いました。そして他の人の命も大切にできる、その思いから、世界への平和へと繋がってほしいと願っています。

大谷小学校6年 黒田 莉亜



78年前広島に原爆が落とされました。当時14歳だった被爆者の梶本さんは、「まるで地獄のようだった。」と話していました。私は資料館に行って当時の状況を自分の目で確かめましたが、傷を負ったあまりにも残酷な姿を最後まで見る事ができませんでした。とても悲しくとても恐ろしかったからです。人とは思えない姿を見て原爆の残酷さを知りました。広島に住んでいる中高生達は、平和のためにできる事を考え自ら行動に移し協力して活動していました。二度と悲しい未来が来ない事を願い、私に何ができるかを考えていきたいです。

大谷小学校保護者 黒田 恵理子



広島に原爆が落とされて78年が経った今も、核保有国が保持する1万2千発以上の核弾頭がある以上、原爆は歴史上の出来事ではなく今尚続く脅威なのだを再認識しました。平和祈念式への参列や資料館見学等で原爆の悲惨さ、残酷さ、無差別に奪い壊す残忍さ、人々の痛み苦しみ悲しみを目で見て肌で感じ、過ちは2度と繰り返してはならないのだと強く感じました。個人や集団の違いを尊重し合いながら、大切な人達が守られる平和な世界の為に、核兵器の廃絶を強く望みます。今回親子で貴重な体験をさせていただき、感謝いたします。

木原小学校6年 野口 悠人



ぼくは、8月5日から7日までの3日間に広島に行きました。そこで広島平和記念資料館を見ました。そこでは、原爆の瞬間や熱線の被害で爆心地から3.5キロメートル以内にいた人はやけどをしたと書いていました。そして爆風の被害で建物などが飛ばされガラスが人の手に刺さってけがをした人が多くいて、こわれた建物の下じきとなり多くの人々が亡くなりました。ほかには、放射線の被害で10年20年たっても苦しんでいる人がいて、とても怖かったです。最後に核兵器は絶対に持っても作ってもいけないと思いました。

木原小学校保護者 野口 昌巳



78年前の惨劇は、私達の想像を遥かに超えるものだった事を改めて実感させられました。その32年後の8月6日に私は生まれ何か繋がりを感じながらも、どこか遠い話とと思っていました。今回、平和記念資料館の見学や当時14歳で被爆された梶本さんの話を聞いて、一瞬で奪われる日常がどれ程酷いものだったかを知らされました。もし自分の大切な人が、と考えると胸が引き裂かれる思いでした。同じ地球に住む人類みんなが仲良く笑顔で過ごせる世界を創る行動を私達一人一人がしていけば、それはきっと実現できる。そう感じた広島派遣でした。



平和の鐘



千羽鶴奉納



式典参列



平和記念資料館